

# 地方での情報教諭として

宮崎県立宮崎西高等学校 山口 将人

平成24年度に採用される教員採用試験で、宮崎県は初めて共通教科「情報」の採用試験を行いました。そして、1名が合格し、宮崎県の初の共通教科『情報』専任の教諭が誕生しました。その採用されたのが私です。地方で初の情報専任教諭となった、一人の教師の3年間の歩みの中で、考え感じたことや、地方での情報教諭の現状を報告する。

## 1 はじめに

### 1.1 宮崎県立宮崎西高等学校

本校は、宮崎県の中心にある宮崎市にある高等学校である。併設型中高一貫校での理数科と普通科の2つの学科がある。

情報科の科目として、平成24年度は1年普通科「情報C」、1年理数科「情報B」、3年文I「情報A」、全て2単位。平成25年度は1年普通科「社会と情報」、1年理数科「情報の科学」、3年文I「情報A」、3年理数科「情報B」、全て2単位。平成26年は1年普通科「社会と情報」、1年理数科「情報の科学」、3年文I「情報A」、全て2単位。平成27年は1年普通科「社会と情報」(1単位)、3年文I「情報の科学」(2単位)。平成27年度から「社会と情報」は分割履修になった。平成24年度～25年度にかけては、数学や物理、家庭科の方と分担して担当していたが、平成26年度からは私が一人で担当している。

### 1.2 経歴

平成19年 福岡大学経済学部経済学科卒業

平成19年 都城工業高校(講師:公民)  
→5年勤務

平成23年 宮崎西高等学校(初任:情報)  
→現在も勤務

## 2 1年目

### 2.1 初任

採用試験に合格し、夢であった教諭としての第一歩を歩み始める。

赴任して初めての教科会は、情報を一緒に担当していただく先生方を他の教科会の中で決めてもらうため、他の教科会後に設定してあった。「情報」の担当者は、私を含め数学2名、物理1の4人であった。数学が専任の先生に指導教員になっていただくことを知り、その指導教員の方が情報の免許が臨時免許であった。そして、教科会の代表者は私であると伝えられた。初任で教科の主任になった。宮崎の進学校の中心ともいえる宮崎西高で

初任の私が教科の主任をするということに驚いた。そして、残念なこともあった。その教科会の中で「私たちにはメインの教科がある。負担を考えてほしい」というお話を受けた。共通教科「情報」は他の先生方にとってどのような科目なのかをその時は知らず、衝撃的な教科会で1年目が始まった。

### 2.2 1年目の授業

恥ずかしい話だが、私は採用されるまで共通科目「情報」の授業をしたことがなく、私が高校生の時もタイピング練習をした記憶しかない。そのため、採用されるまでに独学で学んだ知識しかなかった。

授業が始まるまでに、授業を一緒に担当していただく先生方にどのように授業を進めていくのか、どのような授業をするのか、授業で使う教材は何を使うのかなどを伝えなければならなかった。

最初に書いたように、私は自分自身を中心となって授業計画や他の先生方に授業の内容を示していくということがあるなんて思っておらず、「情報の授業とは」ということを“教えてもらえる”なんて甘い考えを持っていた。そのため、授業計画をほとんどしていなかった。シラバス、授業計画、教材(授業プリント)を作成することになり、朝方に家に帰るといいう日々が続いた。今考えると、当たり前のことを準備していなかった。

シラバスについては、使用教科書の出版社が出しているシラバスを参考にすることができ、問題はなかった。今まで授業をしたことがない私にとって一番問題となったのは、どのように授業をしていくかということのを他の先生方に示さなければならないということであった。その当時の指導主事や教科会での先生方のアドバイスをいただき、授業は穴埋め式のプリントで行うことにし、そして、穴埋めになった部分を中心に期末査に出題することになったのだが、そのプリントをどのような授業して進めていくかを伝えることに悩んだ。私以外の先生方は他の学校で「情報」を担当したことが

あったのだが、実習中心であったり、高度なプログラムを教えていたり、学習指導要領にそぐわない授業であった。そのため、私も含めて初めて挑戦する授業であった。教科会の中で言葉や黒板等を活用して説明したのだが、私の力不足で伝わりにくく、クラス間での学習内容にずれが生じた。

実習に関してはP検テキスト（パソコン検定）を使用し、期末考査までは座学を行い、期末考査後に実習を取り入れた。今考えると座学と実習のつながりがない、授業計画であった。また、P検テキストを活用した授業は、ただP検テキストを各自で読ませながら実習をさせているだけであった。

### 3 2年目

2年目からは私と家庭科の非常勤の方、物理の専任、数学の専任の先生が1名ずつ「情報」を担当することになった。2年目で問題となったのは、非常勤で担当となった方との授業の打ち合わせであった。非常勤の方は「情報」の授業を数年前に数ヶ月の間、情報をしたことがある方であった。非常勤のため、授業が行われる時にしか学校にいないため、未熟であった私がつくった授業計画のプリントだけでは、授業内容を理解することができず、クラス間での学習内容のずれが大きくなった。そのため、週1回のランチミーティングを行うことにした。そのおかげで、クラス間での学習内容のずれが少なくなった。しかし、家庭科専任で「情報」の授業をほとんどしたことがないということもあり、単元によっては教えることが難しく、代行をして授業を行う期間があった。

#### 3.1 授業内容

私の授業が大きく変化したのはこの年からである。なぜかという、「情報」ではどのようなことを伝えていかなければならないのか、どのような授業をしていくべきなのかを学ぶきっかけをつくる大会に参加したからである。その大会とは「第5回全国高等学校情報教育研究会全国大会（千葉大会）」ある。その当時、宮崎県高等学校等教育研究会情報部会事務局長をされていた村上先生が私を大会に誘っていただいた。その大会で現在も授業を改善していくことに力となっている、全国の「情報」担当の先生方とつながることができた。村上先生には宮崎大会でもご尽力いただき、心より感謝している。

この年から、授業の中で必ずノートに授業をまとめることを始めている。授業はスライドを活用し解説する。その内容を生徒がノートにまとめていくという流れにした。

### 4 3年目

この年から私は一人で情報を担当することとなった。全て私一人で担当することにより、クラス間の授業内容や進路のずれ等がなくなり、年間計画に近い形で授業を行うことができた。しかし、一人になることにより、授業時数が22時間となり、会議を含めると週に25時間となった。1限から7限まで休みなく授業を行う日があり、授業の教材研究にかかる時間を確保することが難しい年であった。また、授業数を考えると担任をすることができず、初任3年目であるが担任業務に就くことができなかった。

#### 4.1 授業内容

私は3年目から、挑戦しているのが、「情報と活用と表現」の単元で、全生徒にプレゼンをさせている。テーマ「5分間の授業」～伝えたいこと～というテーマで生徒に活動させる。そして、理数科生徒に対しては、普通科と同じテーマで英語でプレゼンをする。生徒に、スライドに頼るプレゼンではなくプレゼンの一番大切な「何を伝えたいのか」に注目させるために、私はTEDでのプレゼン映像をよく使用する。生徒が一人でみんなの前でたって、プレゼンをする。時間がかかりますが、生徒にとって貴重な体験である。また、このような活動ができるのは受験科目ではない強みだと私は考える。

#### まとめ

現在、情報教諭として採用され4年目になる。宮崎では今年度も情報教諭の採用がなかった。地方と呼ばれる地域では、情報教諭は採用されていくのだろうか。私は宮崎県で第1号の情報教諭となり、他の教科と比べ歴史的にも新しい「情報」という教科現状を知ることができた。今の高校生の保護者の年代は、「情報」という教科がなかった世代の方が多い。もちろん、学校で働く多くの方々が授業を受けたこともみたこともない。私が今大会を宮崎で開催したいと思ったのが、宮崎の方々に共通教科「情報」という教科の存在を知ってもらいたいと考えたからである。そして、少しでも共通教科「情報」の大切さを理解してもらいたいと考えている。ここに書くことはできないが、「情報」の専任になり悲しいことや悔しいことが多くあった。私の次の世代の方々が、情報教諭となり、少しでも悔しい思いをさせないために、本大会を通して、共通教科「情報」が発展していくことを願っている。